

なごや 戦災復興の物語

…名古屋の街はこうしてつくられた…

池田 誠一

【8】公園と学校…緑とオープンスペースをつくる

1 公共・公益施設の整備

戦災復興で街を大きく変えたものの中に、公園と学校があります。公園は、戦前には事業区域内で18箇所だったものが、復興事業では215箇所へと増加し、とりわけ児童公園の増加が目立ちます(図1)。

また学校は、戦後の教育改革に合わせた学

校用地の確保が大きな課題でした。なかでも6・3制への移行という学制改革の中で、新たに出来た中学校(新制中学)の用地確保が大きな課題になりました。その他にも、消防や警察関係の施設等も用地の確保で困っていたのです。戦災復興事業は、区画整理事業の得意技を生かすことによって、このような場面でも大きな力を発揮することになりました。

今回は、公園や学校など生活に密着した公共・公益施設が、戦災復興によってどのように変化を遂げたかをみてみたいと思います。

2 このチャンスに

(1)公園の整備

都市における緑地や公園の認識を変えたのは関東大震災でした。火災をくい止めたのは「緑」だったのです。そのため震災復興事業では、防災のための公園、中でも各学区へ小公園の設置に力が入れられました。

昭和20年12月に閣議決定された「戦災地復興計画基本方針」では、その考えを受け継ぎ、緑地は市街地面積の10%以上を目途に整備することとしました。また翌年9月に施行された特別都市計画法の基準では、その内、身近な

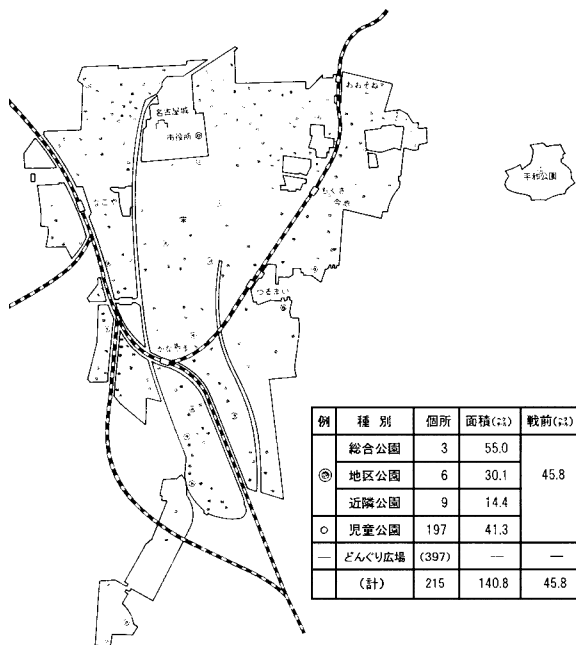


図1 戦災復興事業で整備された公園。児童公園が広く分布している(文献③)

公園の面積を事業区域の5%以上とする目標が掲げられています。本市でも、21年の「名古屋の復興都市計画概要」では、公園面積の目標を10%とし、その用地の確保が進められたのです。

もちろん、元が1%強というところからの出発であり、種々の要請もあって目標通りにはいきませんでした。結果として215箇所、140%。事業区域の4%強の公園を整備することができました。

(2) 新制中学校

戦後、教育も大きく変わりました。中でも6・3・3・4制への改革は、学校を大きく変えることになりました。大まかに言えば、尋常小学校が「小学校」になり、5年制の中学校の後半が「高等学校」になりました。そしてその中間に義務教育の新しい「中学校」ができました。このため一気に多くの中学校を建設することが必要になりました。しかし、小学校の倍近くを求められる用地の確保は難しく、予算もありませんでした。このため復興事業区域内では、その多くの用地を区画整理で確保することになったのです。

区画整理では、鉄道、学校、病院など公共・公益的な施設に対しては、審議会の同意を得て特別の考慮を払った換地計画ができるこ

区	創設換地	特別処分(用地拡張等)
中	白山中、伊勢山中	前津中、名城小、御園小、栄小、大須小、新栄小、千早小、老松小、王子小、松原小、橘小、正木小、平和小
東	あずま中、富士中	桜丘中、旭丘小、明倫小、筒井小、葵小、東桜小、矢田小
熱田	—	沢上中、宮中、高蔵小、旗屋小、白鳥小、千年小
中村	—	笹島中、箕瀬中、六反小、牧野小
西	菊井中、天神山中	幅下小、那古野小、江西小、榎小
千種	—	振南中、若水中、今池中、上野小、大和小、千種小、内山小、千石小
昭和	円上中	北山中、鶴舞小、村雲小、白金小
中川	山王中	広見小、露橋小、八熊小
港	—	東港中、港栄小
(計)	8校	51校

図2 戦後復興事業で用地が創設、拡張された小・中学校

とになっています。名古屋では、この特別の配慮(用地の拡大等)をした学校が51校、全く新しく土地を用意した(創設換地)学校が8校にのびりました(図2)。その他にも警察の派出所や保育園など34の施設が創設換地として新たに用地が確保されています。

(3) 学校公園構想

公園の計画にも大きな変化がありました。従来の比較的まとまった公園ばかりではなく、身近な小公園(児童公園)を分散して配置することに力がいれられました。関東大震災後の復興では、その公園を小学校と隣接させ、災害時に備えて小学校を中心とした近隣住区を形成するよう計画されていたのです。

名古屋でも、終戦直後に出示された戦災復興計画の基本の中で、「国民学校敷地は(中略)道路を隔てて同面積の小公園を配置せんとす」とし、小学校と小公園を組み合わせることがうたわれました。そして、学校公園構想と呼ばれるこの方式は、区画整理地域の多くの小学校で実現することになりました。

(4) どんぐり広場

この他区域内には正式な公園ではありませんが、子供の遊び場として小さな空間が数多く配置されることになりました。「どんぐり広場」と呼ぶこの空間は、区画整理の余剰地を地域のために開放した名古屋独特のもので、大きさは様々ですが、身近にある子供の遊び場として生きています。

このどんぐり広場は、結果的には復興事業区域内に、実に397箇所も設置されることになりました。その後この広場は復興事業区域外にも広げられて名古屋のユニークな施策になっています。

3 街並みを歩く

… 城下西北の公園と学校 …

それでは、公園や学校などが街をどう変えたか、現地を歩いてみましょう。このシリーズではあまり歩いていないお城の西北、西区の浅間町・浄心の付近をまわってみます。

〈幅下から菊井へ〉

地下鉄鶴舞線の浅間町駅の2番出口を出て、

広い国道の南側を東に進みます。2本目に交差する道が江戸時代には幕府の五街道付属街道とされた美濃路です。右に曲がって街道を進むと普通の住宅街ですが、その中の2、3の重厚な家がかすかにその昔を伝えています。

突き当たりは幅下公園で、その向こうは道路を隔てて幅下小学校になります。これが公園と学校を隣接させた、学校公園構想といわれるものです。幅下小は特別換地されているので、街道の美濃路を閉鎖して校地が拡張されたようです。



幅下公園。左に幅下小学校が隣接しているのが見える

学校の西角を南に、すぐ右に曲がると、江川用水の跡に作られた50m道路(江川線)です。右に少し行った所の信号を渡り、右手の道を西にはいると菊井中学校があります。この学校は戦後新しくできたため、創設換地で新たな土地が確保されました。大通りから一本中に入った、いい立地になっていますが、校地はやや狭かったかもしれません。南に曲がり学校を周って西に向かいます。



創設換地でできた菊井中学校

2本目を南に曲がって通りを越えると左側に公園があります。新道中央公園と名付けられた街の中の小公園です。戦災復興でできた公園は市街地に貴重な緑とオープンスペースを提供しています。公園の南を右に曲がり、



タワーズを望む新道中央公園。緑とオープンスペース



街路樹も道路が拡張されて可能になった

幹線道路を右の信号で渡ります。そのまま西に進むと右に公園があります。この江西公園はその向こうにある江西小学校と隣接する公園ですが、少し離れています。この辺りは戦前に区画整理が行われていたため配置が自由ではなかったのでしょうか。公園を西北に横切り、小学校を北から西に廻るとノリタケの工場の角に出ます。南北のまっすぐの道はむかし笈瀬川の流れていた所です。拡張されたことで街路樹のある美しい道になりました。

右に曲がり、川の跡を北に進みます。笈瀬川は名古屋城築城の時に石が運ばれた水路で、この付近で降ろされて現場に運ばれました。少し行くと右側に桜木公園があります。この



どんぐり広場。ちょっとした緑と広場が遊び場になる

公園は戦前の区画整理でつくられました。中に戦後の公園には見られない馬頭観音がまつられています。北に進むと右に小さな空き地があります。これがどんぐり広場で、この近くにも5、6箇所あるようです。さらに進み、国道を渡ると押切です。

〈押切から児玉へ〉

押切は、戦国時代には押切城があったとされます。明治末には名鉄の前身の鉄道が乗り入れるなど、この方面の拠点的な位置にあります。国道の北はすぐ榎小学校です。手前の道を右に入ると、学校に連続して公園があります。当初はその間に道路がありましたが、学校が狭いため閉鎖されて一体化しました。公園から見ると、境のネットを挟んで一つの運動場のように見えます。北に出て西へ。通りを北に進みます。すぐに渡る商店街のある通りが美濃路です。



学校と公園が接することになった榎小学校。
境のネットをはずすと一体になる

一本北の角に名古屋の中央郵便局があります。ここから北には、江戸時代は家老の志水家の大きな下屋敷がありました。その後が女子師範学校になり、戦後は公共・公益的な施設が立地しました。郵便局の手前の道を東に入ると税務署があり、その前で左に曲がると左は名古屋西高、突当りは天神山中学、右は西警察署と並びます。この天神山中学も新しく、創設換地でできました。中学校を左回りに周って北に出ると近隣公園とされる押切公園です。この公園は戦前に計画されましたが、戦後拡大して実現したものです。公園の西北角の信号を北に入ると右に小さな公園があり、その北に児玉小学校が隣接しています。ただしこの校地は戦前にできたものです。

学校の北、1本目までが戦災復興事業の範



区域の内外で微妙な差がでた路。手前は6メートル。その向うは8メートルで右に歩道ができた

囲になります。その境の道を東に進みます。面白い対比を見せるのは道路幅で、北は約6メートル。南は復興事業の最低基準の8メートルです。8メートルになると片側ですが歩道を取ることができるのです。少し行ったバス通りから北を見ると浄心中学校です。復興区域外の中学校用地は苦労して土地が探されました。ここはたまたま名古屋市第一高等小学校があった所で、元々高等小学校系だったのです。東に少し行くと工事中の江川線に出て、右に曲がれば地下鉄の浄心駅になります。

4 地域に活かした区画整理

区画整理が目指すものはいろいろあります。区画整理という文字から言えば、土地の形状や道路の区画を整然とすることでしょう。また都市からみれば都市計画の街路や施設、いわば幹線道路や都市公園の整備が目指すものでしょう。しかしもうすこし素朴に考えると、区画整理とはみんなが土地を出し合って必要となる公共・公益施設を作ることではないでしょうか。公園や学校等を作り、ライフラインを整備するというのが、地域にとっての区画整理のように思えます。

今日では、公園も学校も、区画整理の結果用地が確保され、立派に整備されました。しかも児童公園と学校とを組み合わせた学校公園構想や、区画整理の余剰地で作ったどんぐり広場。これらは共に、戦災復興を通して名古屋が、ぬきんでて実現させたことでした。

〈主な参考文献〉

- ①伊藤徳男『名古屋の街 戦災復興の記録』（1988、中日新聞本社）
- ②市計画局編『名古屋都市計画史』（1999、名古屋都市センター）
- ③同編纂委員会『戦後復興誌』（1984、市計画局）
- ④同編纂委員会『西区70年の歩み』（1978、西区役所）